

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス インクル2		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 10日	～	令和8年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 25	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 10日	～	令和8年 2月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人内に児童発達支援センターがあり、継続的に支援ができています。また様々な情報交換情報共有もスムーズに行える。	法人内で合同会議を定期的に行っており、お子さんを含む家族のことについて共有するようにしている。会議以外でも適宜必要に応じた情報交換を行うようにしている。	今後もスタッフ間で交流を図りながら、お子さんや家族を取り巻く環境に配慮して支援していけるよう心がけていく。
2	法人内に相談支援事業所があり、お子さんや家族の情報を共有でき、情報交換も頻繁にしやすい環境にある。	モニタリングの時期以外でも、必要に応じて情報交換を行っている。学校や事業所との情報交換など、家族の要望に迅速に対応出来るよう心がけている。	今後も相談支援事業所と連絡を取り合いながら、学校や他事業所との連携を図っていく。
3	利用児の年齢の幅が広く、活動や遊びを通して、異年齢の子供同士の交流ができ、関わりの幅が広がる。低学年の児童(小学生)の親御さんは、高学年(中高生)への成長の見通しを持ちやすい。	年齢の幅や発達の幅も大きい為、集団での活動は、焦点の当てづらさはあるが、活動によってはチームに分かれて行ったり、高学年の児童に役割を持たせたりと活動の中お子さん同士の関わりが持てるよう工夫している。	それぞれの年齢や発達にあった支援や活動の機会を増やせるよう、活動内容やスタッフ配置を考えたい。また、家族同士の交流を深めていけるよう努めたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童の年齢の幅が広い為、活動や遊びの設定をする際に難しさがある。また、学年の差が大きく、下校時間に差があり、全員揃っての活動時間の取りにくさがある。	スタッフの配置人数の問題もあると思われるが、送迎、活動の流れ、内容についても再検討し、改善や工夫の必要があると思われる。	スタッフの役割分担の再確認、活動の流れ、支援内容など、改めて見直す。また、特に高学年の児童には自立に向けた活動等、役割りを持って参加するなどの活動内容の工夫も考えていく。
2	利用児童が、年齢の幅も大きく、発達や特性が多様に渡っていることもあってか、スタッフの対応の仕方が統一されていない部分も見られている。	利用児童一人一人の特性について考えながら、スタッフ一人一人が意識を持って接していけるようになる。	スタッフ一人一人が意識を高められるよう、勉強会や研修への参加の機会を増やしていく。
3			

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス インクル2

公表日 令和8年3月2日

利用児童数 10人 令和8年 2月 26日

回収数 10

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからな い	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8	1		1		
	3 上記空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9			1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10					
適切 な支 援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	1		1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	1		1		
保 護 者 へ の 説 明 等	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	4	3		3		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	2		4		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	10					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1		1	7		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8			1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、初犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	9					

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス インクル2		公表日	令和8年 3月 2日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		年齢の幅もあり、適切とは言えない部分もあるが、活動内容に合わせてコーナーに仕切って使うなどの工夫をしている。	定期的に安全点検を行い、事故が起こらないよう確認していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		活動内容によっては人員不足と感ずることがあるので、職員間で配慮しながら工夫している。	毎日の利用人数に加え、年齢や発達の幅の広さを考えると、今後十分に対応できるよう検討が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	2	スロープ、手すり、段差の配慮はされているが、個々の障害の特性に合わせた環境の配慮は十分とは言えない部分もある。	利用児童の特性に合わせて環境を整えていくよう配慮していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		3	視覚的手がかりを掲示している。活動に合わせて、空間を仕切って活動している。	清潔で心地よく過ごせるよう、空間の配置や衛生面に配慮していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		個別対応が必要な児童には、適宜提供している。	利用人数に対して、利用できる人数が限られている。配置や設定の見直しも考えていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	1	3	職員会議の中では、全員が参画できるようにしている。	職員の共通認識ができるよう検討していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		頂いた意見を職員間で周知し、改善を検討している。	頂いた意見を再検討し、改善できる点を模索していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		機会は設定している。	再検討をしながら、今後改善できる点を模索していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1	外部評価結果に基づき法人全体で改善策を議論している。	評価結果を受け、改善に努めていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		法人内での合同研修等で情報共有の機会を作り参加している。	職員の資質の向上のため、研修を受講する機会を確保していきたい。
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		相談支援専門員との情報交換、提供を通して把握し、計画を作成している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		相談支援専門員やお子さんに関わる方からと助方交換し、保護者と話し合っで作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		スタッフ間で情報を共有し、共通理解のもとで支援を行っていけるように心がけている。	スタッフ間での共通認識して支援に向かえるよう、改善できる点を模索していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		スタッフ間で共通理解のもとで、個々の計画に沿った支援を行っていけるように心がけている。	活動内容の見直しなど、改善できる点を模索していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2		個々の子どもへの適応行動の状況をスタッフ全員が認識できるよう心がけている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支	2		個々の子どもへの支援内容を踏まえながら、支援内容への設定を心がける。	個々の子どもに対応していく中で、偏りが無いよう検討していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		職員会議の中で話しあっているが十分ではない。	活動後、改善できる点など模索していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2		活動後に振り返りを行い、改善できる点を次に活かせるよう話し合っている。	振り返りを基に、改善できる点など模索していく。

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		お子さんの発達状況に応じて、集団の中で個別に対応するなど計画に沿って支援を行っている。	それぞれのお子さんにあった支援が活動の中に取り組めるよう工夫できる部分を考え、考えていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		支援開始前に流れや活動内容、役割分担について確認している。	スタッフ間で共通認識して支援に向かえるよう、スタッフ間で改善できる点を模索していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	1	支援終了後は、振り返りを行い、気づいた点や改善すべき点について共有している。	スタッフ間での共通認識して支援に向かえるよう、改善できる点を模索していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		活動全体、個別に関して記録を取って、今後の改善に努めている。	記録後の支援の検証と改善点など、今後について考えを深めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		相談事業所と情報を共有しご家族の希望、ニーズにあった計画が立てられるよう心がけている。	職員間で、完結することなく、幅広く様々な意見を聞く場を設けることで、さらに支援内容を改善できると考えている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	2	1	複数組み合わせ、支援を行えるよう心がけている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	1	2	お子さんの年齢や発達に合わせて選択できるよう心がけている。	スタッフ間での共通認識して支援に向かえるよう、改善できる点を模索していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		相談支援専門員と情報を共有し、ご家族と学校や他の事業所との担当者会議に参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		相談事業所を通して連携を行っている。	各機関と連絡を取り合いながら、共通認識を持ってしえんできるよう心がけていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		学校とは、送迎時など日常的に情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3		児童発達支援事業所とは、情報共有をし、相互理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3		障害福祉サービス事業所との連携は、今後の課題。	今後、連絡を取り合っ、情報を共有してけるように努めていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	1	同じ法人何で、定期的に情報交換を行い、連携を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		3	地域の老人施設とは交流を行っているが、放課後児童クラブとは行えていない。今後交流できるよう検討していきたい。	地域交流を積極的に行っていけるよう活動内容を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		2	参加できていないため、今後の課題。	積極的に参加していけるよう検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		送迎時にお子さんの状況を伝達したり、連絡帳で情報を交換している。モニタリング時には、ご家族と課題について話し合っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		2	家族が参加できる研修等の情報は提供している。	情報を広く収集して、提供したり、実際に行っていけるよう努めていく。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		個々に具体的に説明するよう心がけている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		日常的に保護者と情報交換を行う中で、家族の意向等を確認している。	ご家族が話しやすい環境を整え、日常的に家族との情報を共有していけるよう努めていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3		具体的な説明を行い、同意を確認している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		日常的に保護者と情報交換を行う中で、家族の意向等を確認している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		3	父母の会はなく、保護者同士が交流する場がない。	家族や保護者同士が交流する場を設けていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		保護者からの苦情があった際には、できる限り迅速に対応するようにしている。	スタッフ間で情報を共有して対応していけるよう努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3		毎月お便りで活動の様子を報告している。	今後は、SNS等も活用しながら、連絡体制や情報発信を行っていくことも検討していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		個人情報の取り扱いについては、十分留意している。	個人情報の保護については、スタッフ間で今後も十分に確認していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		情報伝達に関しては、配慮して対応するようにしている。	スタッフ間で情報を共有して対応していけるよう努める。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	1	近隣の介護施設との交流を図った。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	2	各マニュアルは設けている。職員間では、周知できているが、十分ではないと思われる。	家族への周知に関しては、マニュアルを作成して対応し、発生を予想した訓練の実施も行っていくよう努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2		様々な場面を想定し、毎月実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	2	1	事前に情報を収集し、確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		事前に情報を収集し、確認している。提供の際には、複数人での確認を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		日常的にスタッフ間で、確認することを心がけている。	今後も必要な研修や訓練を重ね、定期的に安全点検し確認していく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3		スタッフ間では周知できているが、家族への周知が十分とは言えない。	定期的に安全点検し確認し、家族への周知に努める。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		日頃からスタッフ間で心がけている。	再発防止に向けて、定期的に安全点検し方策について確認していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2		研修した内容をスタッフ間で情報を共有し、対応していくよう心がけている。	全スタッフが研修会に参加できるよう努めていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2		事後の報告は行っていたが、具体的な事前説明は十分とは言えない。	資料の配布など、具体的な提示をするなど、周知していくようにする。